



図 2

十勝沖海底柱状コアの解析から明らかにされた過去2万3千年前までの(a)底生・浮遊性有孔虫の酸素同位体比変化(水温の変動を表す)、(b、c)底生・浮遊性有孔虫の炭素同位体比変化(図中番号1a-c,2,3,4がメタン放出があったとされる層準)、有孔虫の炭酸カルシウム骨格に含まれる炭素同位体比を測定することにより、メタンハイドレートからメタンが放出されたかどうか調べることができる。